

## 2018年度国際教養学部 FD 活動報告書

国際教養学部 2018年度 FD 委員会委員 後藤邦夫

2017年度新設の本学部では、1年次、2年次の授業の円滑な実施、全科目でのアクティブ・ラーニングの活用を中心に以下の活動を実施した。

### 1. 当初計画

- 1) 円滑な授業実施
- 2) FD 勉強会・報告会の開催
- 3) FD 講演会の開催
- 4) 教育効果の点検評価
- 5) 教員相互の授業参観の促進

### 2. 2018年度活動内容

1) 教授会のさいに授業や問題を抱えていると思われる学生に関する情報を交換した。また、Q2のASU留学プログラムも円滑に実施できた。

2) 下記の通り1回開催した。

#### FD 研究会

日時: 2018年6月27日(水) 教授会終了後 16:10 から 17:10

場所: Q棟7階会議室7

テーマ: 学生レポート等のスタイルに関する意見交換 (英文、和文、その他)

話題提供者: 後藤 邦夫

出席者: 学部教員 15名

概要: 授業や演習で提出を求めるレポートのスタイル(書式、フォーマット)に関して矛盾のない指導をするために情報を交換した。

英文はAPA、MLAの2種類に準拠すれば問題がないが、それらから派生した、和文のレポートと論文のスタイルは分野や学会ごとに細部が異なることを認識した。細部は3年次の演習以後の科目で指導するので、それまでは基本的事項を授業で取り扱い、複数教員が担当するクラスで細部までスタイルを統一する必要はない、等の意見があった。

3) 下記の通り1回開催した。

#### FD 講演会 (学科研究会と併設)

日時: 2018年10月18日(木) 17時30分~18時30分

場所: Q棟7階 会議室(71)

演題: 企業が求める人材とは~就活の現場から

講師: 篠田花子氏 (株式会社ジオコス 取締役)

出席者: 国際教養学部教員 13名

概要: 本学部学生の職業選択基準調査、企業の求める人間資源像、新しい仕事と生活のバランス、等について興味深い内容の講演であった。活発な質疑もあり、今後の学生の職業指導に役立つ内容であった。

### 4) 学生による授業評価

4学期とも授業を担当する教員が多いので、全学で実施する「学生による授業評価」の実施回数が多かった。

WebClassで学生用ポートフォリオ用疑似コースの運用を継続した。

1年次生にはQ1開始時、Q2終了時、Q3開始時、Q4終了時の4回、2年次生には、Q1開始時、Q3開始時、Q3終了時、Q4終了時の4回の入力を求めた。

5) 多元文化論(2年次Q1、オムニバス形式)の大教室使用コマでの担当者間の相互参観が4件程度あった。

### 3. 点検評価

#### 1) 効果が上がっている事項

- アクティブ・ラーニングと留学プログラムは成功している。2年次学生の討論、発表スキルが大きく向上したことを、帰国後の報告会での英語による発表で確認できた。
- 研究会で文書作成指導に関する認識を共有した。また、講演会では、本学部学生のアンケート結果等から、学生の職業に対する意識や希望を知ることができた。

#### 2) 改善を要する事項

- ポートフォリオは学年が進むにつれて入力率が低下している。原因の一つは教員からの案内不足であると思われる。ただし、ポートフォリオは各学生自身の自己点検・評価を目的とするので、今後はFD活動でなく、全体的な教育活動として取り扱う。
- オムニバス形式以外の相互授業参観が少ない。
- 教員が互いの教育・研究分野を十分に理解していないので、学生への説明が難しい。

#### 4. 将来の発展方策

##### 1) 効果が上がっている事項

- 集計可能な情報を集計して、学習の進捗を数量的にも把握する。
- 教員の主観による学生のスキル等に関するアンケート調査実施を検討する。

##### 2) 改善を要する事項

- 相互参観の促進には、学部教員が参観しやすいように、公開に適切な内容のコマをアナウンスする、15分以内の授業ダイジェストビデオを作成し閲覧するなどの方策を検討する。
- 教員が互いの教育・研究内容を紹介するためのFD研究会の開催を検討する。

以上